

## 新幹線の開業準備

鉄道・運輸機構 理事 長谷川 雅彦

春は卒業と就職の季節ですが、鉄道新線も3月のダイヤ改正に合わせて開業することが多くあります。建設主体である機構にとって開業は建設事業の卒業、営業主体である鉄道事業者においては鉄道事業の始業といえます。また、併せて多くの場合、並行在来線や駅周辺施設の業務も開始されております。

私自身が勤務した地方機関で開業を迎えた、平成23年3月の博多開業および平成28年3月の函館開業で感じたことを含めて、新幹線の開業準備について紹介します。

多くの人命を預かる大量高速輸送機関である新幹線ですが、乗客の皆様は安心・安全・快適にご利用いただくため、また、沿線環境を保全するため、開業前に施設・設備の検査を一年以上の時間をかけて行っております。

博多・新八代間では、機構職員延べ2600人による250日間の事前確認の後、81日間で機構5500人、JR九州・JR西日本2500人の要員により念入りに検査を実施しました。検査後、JR九州による訓練運転等の運行・営業にむけた準備を進めるとともに、自治体の協力を得て、開業気運を醸成するための試乗会や駅内覧会、マスコミ等を通じたPR活動を進めました。また、開業日には一番列車に合わせた式典を計画し、地元自治体を中心に相当の時間をかけて準備しておりました。新幹線と併せてJRが整備を進めた博多駅ビルは1週間先行して開業しておりました。そのような中、開業前日に東日本大震災が発生しました。

震災発生直後は災害の規模も不明であり、工事に携わった者の建設期間への想い、熊本県の開業ゆるキャラ「くまもん」をはじめ関係各人の「この日」に向けた開業準備への想いも大きかったのですが、報道で災害の様子

が明らかになるに従い、早々に祝賀会等の式典の中止を決定しました。

一時は開業そのものを見送る意見もありましたが、「開業は祝い事ではなく業務開始である」とJRに決断いただきました。地震の影響で空席のある一番列車を心の中でバンザイして見送った後、新しい博多駅前広場に立ち、街の生まれ変わりを実感したことが思い出されます。

5年後の新函館北斗駅では、九州で叶わなかったブルーインパルスが青空を舞い、多くの方に開業を祝っていただきました。長年にわたり事業誘致にご苦労いただいた地元関係者から、新幹線が津軽海峡を渡ることに對する喜びをお聞きすることができました。

長い新幹線整備の歴史の中で、建設段階を担当できる喜びを感じ先人の努力に感謝し、また、新幹線、並行在来線、駅周辺施設などの営業につながる業務の責任を認識して、北陸新幹線での反省を踏まえて、地域と一体となり事業を着実に進めてまいります。

西九州新幹線（武雄温泉・長崎間）は9月23日の開業に向け施設の検査も大詰めとなっており、6月には全線で車両を使った総合検査を実施してJR九州に施設管理を引き渡し、その後、JR九州による訓練運転等の準備を進めていくこととしております。

北陸新幹線（金沢・敦賀間）は令和5年度末の開業に向け、最終盤の設備工事を進めるとともに、完成した区間から施設の検査等を開始しております。

多くの方に新しい新幹線をご利用いただき、魅力あふれる西九州や北陸を訪ねていただけるよう、関係機関と協調して着実に工事および開業準備を進めてまいります。